

生食用ばれいしょ「ゆめいころ」の 育成と普及に向けた取り組み

北海道立総合研究機構 北見農業試験場
ばれいしょ牧草グループ 研究主幹

しなだ ひろし
品田 博史

1. 「ゆめいころ」の育成の背景

ばれいしょの国内需要は、ここ数年350万t前後で推移している（農林水産省2026）。北海道は、国内のばれいしょ主産地であり、国内生産量の8割にあたる180万t前後が生産されている。北海道における安定・持続的なばれいしょ生産は、関連産業の振興においても重要であるが、生産上の問題としてジャガイモシストセンチュウ（*Globodera rostochiensis*：以下、Gr）の蔓延がある。Grは防除が困難な土壌害虫であり、Gr密度が高い圃場で感受性のばれいしょ品種を作付けすると著しい収量低下が起こる（山田 1987）。さらに、わが国の植物防疫法上、Grが確認されたほ場では種ばれいしょ生産が認められない。北海道では、昭和47年にGrの発生が確認されて以来（稲垣1984）、発生面積が年々増加しており、蔓延防止対策としてGr感受性品種からGr抵抗性品種への置き換えの取り組みが進められている（農林水産省2026）。

ばれいしょは、小売店で青果物として販売される以外にも、中食や外食で販売されるサラダやコロケに加工利用される生食・業務加工用（以下、生食用）、ポテトチップスやフレンチフライの原料となる油加工用さらには片栗粉といったでん粉生産に用

いられるでん粉原料用途など幅広い用途に使用されており、品種の特性に応じて使い分けられている。北海道で作付けされている生食用ばれいしょの主要品種は「男爵薯」である。「男爵薯」は、早生で秋まき小麦の前作として作付け可能で高い知名度・ブランド力を誇る品種であるが、Gr感受性であることが栽培上の大きな問題となっていることから、「男爵薯」と置き換え可能なGr抵抗性新品種の開発・普及が長年の課題であった。

こうした背景のもと、北海道立総合研究機構北見農業試験場（以下、北見農試）では、早生で肉色が“白”のGr抵抗性生食用バレイショ品種「ゆめいころ」を育成した（令和3年北海道優良品種認定）。本稿では、「ゆめいころ」の特性とその普及状況について紹介する。

2. 「ゆめいころ」の特性概要

（1）生態的および形態的特性

育成地（北見農試）の試験成績において、枯ちよう期は「男爵薯」と同等の早生である（表1）。塊茎の形は、「男爵薯」よりやや長い“短卵形”である。塊茎の目は“やや浅”で、肉色は白である（図1、表2）。褐色心腐などの塊茎の生理障害の発生程度は「男爵薯」並である。休眠期間は「男爵

表1 北見農試における「ゆめいころ」の生育および収量成績¹⁾

品種名	萌芽期 (月/日)	枯ちよう期 (月/日)	茎長 (cm)	茎数 (本/株)	上いも ²⁾				規格内いも ²⁾			でん粉価 ⁵⁾ (%)
					数 (/株)	平均重 (g)	収量 (kg/10a)	収量比 ³⁾ (%)	率 ⁴⁾ (%)	収量 (kg/10a)	収量比 ³⁾ (%)	
ゆめいころ	5/29	8/29	57	3.3	10.6	118	5,464	107	87	4,749	110	15.5
男爵薯	5/30	9/2	53	3.8	11.7	101	5,098	100	84	4,301	100	14.9

1) 2015～2025年の試験平均。植え付け日の平均は5/12。栽植密度4444株/10a。施肥量(kg/10a) 窒素8.0、リン酸20.0、カリ14.0、苦土5.0。

2) 上いもは20g以上のいも。規格内いもは60～260gのいも。

3) 「男爵薯」の収量を100とした際の、「ゆめいころ」の収量割合。

4) 上いも収量における規格内いも収量の割合。

5) 比重 $-1.05 \times 214.5 + 7.5$ により算出。

薯」より長い(表2)。

(2) 収量性

育成地(北見農試)の試験成績において、上いも数は「男爵薯」より並～少ないが、上いもの平均重は「男爵薯」より重い(表1)。規格内いも重は、「男爵薯」対比110%と多収で、でん粉価は「男爵薯」に比べやや高い(表1)。近年、高温の影響により、ばれいしょの収量が低下する事例

があるが、北見農試の試験においては、高温年であった2023年や2025年においても規格内いも重は「男爵薯」対比で安定して110%程度多収であった(図2)。

(3) 病虫害抵抗性

Gr抵抗性を有する。そうか病抵抗性は「男爵薯」の“弱”に対して“中”である。疫病抵抗性およびYモザイク病抵抗性は「男爵薯」同様の“弱”である(品田 2023)。

(4) 食味および調理特性

「男爵薯」と比較して、煮崩れしにくく目が浅いことから皮剥きしやすく、調理適性は良好である。食味は、「男爵薯」よりいもの風味は弱く、“あっさり”としており、粘粉性は「男爵薯」に比べて粘質系であるが「メイクイン」よりは粉質であり、“しっとり”とした食感である(品田 2026)。



図1 「ゆめいころ」の塊茎(北見農試産)

表2 北見農試における「ゆめいころ」の品質調査成績

品種名	塊茎の特性 ¹⁾				休眠期間 ²⁾ (日数)	生理障害発生率(%)		
	形	目の深さ	皮色	肉色		中心空洞 ³⁾	褐色心腐 ³⁾	二次成長 ⁴⁾
ゆめいころ	短卵形	やや浅	淡ベージュ	白	107	5.0	1.5	0.4
男爵薯	円形	深	淡ベージュ	白	93	5.3	2.3	0.7

1) 農林水産植物種類別審査基準(農林水産省2019)に基づく判定。

2) 18℃貯蔵で、芽長が5mm以上伸びた塊茎が50%以上に到達した日を休眠明け日とし、枯ちよう期から休眠明け日までの日数を休眠期間とした。

3) 育成地における2015～2025年の10ヵ年試験の平均。各年次、サイズの大きい45塊茎で調査。45塊茎中の発生率。

4) 二次成長は発生塊茎/調査塊茎数×100により算出。育成地における2015～2025年の10ヵ年試験の平均。

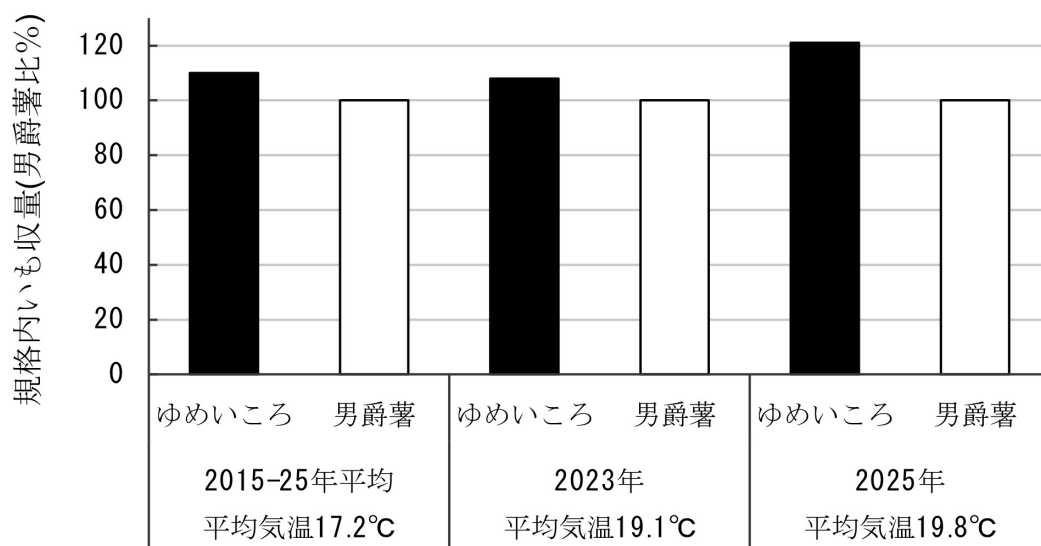


図2 高温年の「ゆめいころ」の規格内いも収量（北見農試）
規格内いもは60～260gのいも。平均気温は5/10～8/31の日平均気温の平均。

3. 「ゆめいころ」の普及に向けた取り組み

「ゆめいころ」は、「男爵薯」並の“早生”であり、収量性が「男爵薯」より明らかに優れ、Gr抵抗性と“中”程度のそうか病抵抗性を併せ持つ。食味は、「メイクイン」および「きたかむい」など他の生食用の既存品種に比べて「男爵薯」に近い特徴がある（品田ら 2026）。「男爵薯」に置き換えて普及が進むことで、北海道におけるばれいしょの安定生産およびばれいしょ関連産業の振興に貢献できると期待される。

新品種の普及においては、①生産者における新品種の特性認知と作付け意欲向上、②食品加工メーカーによる魅力的な商品開発および③消費者における認知度ならびに購買意欲の向上が重要と考えられる。さらに、②・③により生産者における作付け意欲のさらなる向上といった好循環のサイクルを回していく必要があるが、ブランド力の高い「男爵薯」に置き換えて「ゆめいころ」の普及を進めるためには、まず知名度

を向上させることが重要である。現在、「ゆめいころ」の知名度向上に向けて、多数の関係機関が尽力している。以下、事例の一部を紹介する。

北海道馬鈴しょ協議会では「ゆめいころ」が北海道の優良品種に認定された令和3年より早期普及に向けた取り組みとして、「ゆめいころ」の種ばれいしょの早期増殖および増殖した種いもを試験用として広く無償配付する事業を行っている（北海道馬鈴しょ協議会 2023）。同事業において、令和5～7年度の3カ年で、希望があった34カ所の生産者に「ゆめいころ」が配布されており、生産者における「ゆめいころ」の特性認知および作付け意欲の向上に役立っている。

食品加工メーカーにおいても、「ゆめいころ」を原料とした商品の試作試験、新商品の展開および認知啓発に取り組んでいる。例えば、ポテトサラダを製造・販売するデリア食品株式会社では、持続可能な国

産ばれいしょ生産への貢献を目指して令和12年までに使用する全てのばれいしょをGr抵抗性品種へ切り替えることを目標としている。その一環として、「ゆめいころ」を使用したポテトサラダの販売を令和8年2月より開始し認知度向上を図っている（デリア食品株式会社 2026）。

消費者の認知度ならびに購買意欲の向上に向けて、行政機関も積極的な取り組みを行っている。北海道農政部では、北海道が出展する物産展などの催事において、「ゆめいころ」のポスターの展示や農産物カードの配布を行っている（図3）。さらに、農林水産省では、種ばれいしょ産地を保全するためにはGr抵抗性品種への転換が急務であることから、「ジャガイモシストセ

ンチュウ抵抗性品種の作付拡大のための目標」を策定し、都道府県による「ゆめいころ」をはじめとしたGr抵抗性品種への転換計画の作成等の取組を推進するほか、補助事業においてGr抵抗性品種への転換やGr抵抗性品種の需要拡大に向けた産地の取り組みの支援を実施している（農林水産省 2026）。

このような取り組みの成果として、生産者の作付け意欲は向上してきており、農研機構種苗管理センターからの「ゆめいころ」の原原種配布実績が年々順調に増えている（図4）。令和7年度の「ゆめいころ」の配布実績は、1,335袋である。特に、オホーツク地方では「ゆめいころ」の作付け拡大を目指しており、JAきたみらい、JAめま



図3 「ゆめいころ」のポスター（左）および農産物カード（右）
（北海道農政部提供）

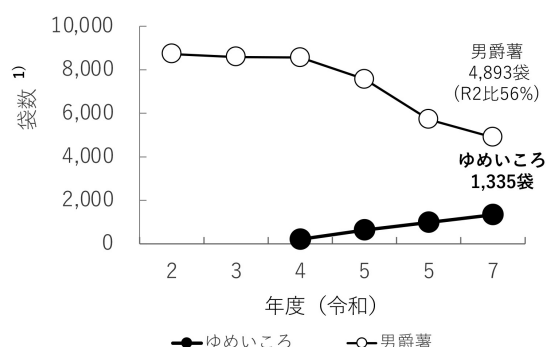


図4 「ゆめいこ」の原原種の配布実績
農研機構 種苗管理センターからの提供データを編集。
1) 1袋当たり20kg

んべつ、JAびほろおよびJAつべつでは、令和10年には合計1,000haの作付けを見込む。一方、「男爵薯」の令和7年度の原原種の配布実績は4,893袋で令和2年度比56%まで減少した。Gr抵抗性を持たない品種の原原種の配布は、原則として前年度の配布申請数量を上回る数量の申請が出来ないことから、今後も「ゆめいこ」などのGr抵抗性品種への置き換えが進み、「男爵薯」の生産は減少するものと予測される。

ばれいしょは用途が多様であり、現在の日本の食文化に欠かせない食材となっている。北海道のばれいしょ生産の安定化は、ばれいしょ関連産業の振興のみならず我が国の食料安定供給においても欠かすことができない。「ゆめいこ」など新たに開発されたばれいしょ新品種は、Gr抵抗性以

外にも生産性・品質が向上している品種が多く、普及が進むことで、生産者、加工メーカーおよび消費者にとっても様々なメリットがある。ばれいしょの育成機関である北見農試としては、今後も関連機関とも連携の上、新品種の開発およびその普及に取り組んでいきたい。

「ゆめいこ」の特性評価の一部は、農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業（イノベーション創出強化研究推進事業）および北海道馬鈴しょ協議会の委託試験により実施したものである。

引用文献

- 1) 農林水産省 (2026) ばれいしょをめぐる状況について (令和7年12月 ポテトフォーラム)
https://bareishokyougikai.jp/common/files/data_suzuki.pdf 【閲覧日2026年4月13日】
- 2) 山田英一 (1987) 北海道立農業試験場報告 61: 1-98
- 3) 稲垣春郎 (1984) 北海道農試研報139: 73-144
- 4) 品田博史 (2023) 育種学研究 25: 158-165
- 5) 品田博史 (2026) 日本作物学会紀事 95: 169-176
- 6) 北海道馬鈴しょ協議会 (2023) 北海道馬鈴しょ協議会だより 25
- 7) デリア食品株式会社 2026
https://www.deria-foods.co.jp/assets/pdf/release_260120.pdf 【閲覧日2026年4月10日】